

安息日を守る

2010年4月25日 アシェル・イントレーター

イスラエルで福音を伝える時、私たちは「律法(注1)を守るか」という質問に対応しなければなりません。宗教的なユダヤ人が「律法」という時、彼らは聖書の律法とラビによる律法(注2)を加えて、混ぜ合わせているからです。もし私たちが「いいえ」と答えたら、私たちは聖書の権威を失うことになります。もし私たちが「はい」と答えたら、彼らはどの「ハラハー(ラビによる規定)(注2)」を守るのかと質問してきます。

注1:「律法」という言葉には、いろいろな受け取り方があるが、ヘブライ語の「トーラー」という言葉には「法律、み教え、指示」という広い意味を持つ。実際にモーセ五書(創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、そして申命記)には、人類の歴史、族長たちの歴史、様々な規定に生活指針まで細かな内容が幅広く載っている。この記事では便宜上「律法」で統一します。

注2:「ラビによる規定(ハラハー)」は、モーセ五書に書かれた613の規定(書かれた律法)と、タルムードなど編纂された口伝律法から、今の生活にどう適用するのかという様々な規定を含むもの。「ハラハー」とは元々「歩く」「行く」という動詞から派生した言葉で、律法の側面と「歩み方」「～の仕方」という生活、霊的指南書的な要素もある。ハラハーは一つあるのではなく、アシュケナジー系、セファルディー系、イエメン系ユダヤ人と、それぞれの団体によって異なったハラハーの解釈があると言われている。

この質問に対する私たちの答えははっきりと「はい」ですが、守るために異なった方法をとっていることをすぐに説明します。最初の差異は、私たちは聖書の律法に権威があり、それを受け入れているが、ラビによる律法はそうではないということです。私がこれをイスラエルのテレビで説明した時、インタビュアーは私たちの立場をただちに理解しました。そこで、討論は多くのより深い論点へと展開していきました。(彼は私たちが古代ユダヤ教一派であるカライ派(注3)のようだと思ったようです。カライ派は、旧約聖書は権威あるものだが、ハラハーはそうではないという立場を取ります。)

注3:カライ派:ラビ的ユダヤ教を避け、聖書の権威は認めつつ口伝律法(タルムード)の権威は認めない一派。8世紀、バビロニアのラビ・アナン・ベン・ダヴィド Anan ben David を創始者とする。聖書を実行するため、安息日には家から出ず、火をたかない。現代においてイスラエル、カイロ、イスタンブール、クリミアにカライ派のコミュニティが残っている。

原典

聖書の律法は数千年前に与えられたものですが、他と無関係に成就することはできません。律法は4つの部分が一組になった、その一部なのです。

1. YHVH(注4)の御使い(シナイ山で十戒を記した者)

2. 律法そのもの（異なった段階の重要性を持つ-マタイ 23:23)
3. 血の犠牲（律法に背いた時に赦しを与えるもの）
4. 聖霊（律法を成就するために人を導き、力を与える者- 民数記 11:25-29、ローマ書 8:2-4)

注 4: YHVH: 神の御名は聖なるものであって、みだりに口にしてはならないという十戒の教えにあるように、ユダヤ人は決して御名を発音することはない。YHVH は、ヘブライ語の(ヨッド・ヘイ・ヴァヴ・ヘイ)「יהוה」をアルファベット化したもので、神聖四文字「テトラグラマトン(ギリシャ語で「四文字のある単語」という意味)」と言う。この記事ではそのまま便宜上 YHVH を用います。ユダヤ人が神の御名を口にする場合、「アドナイ(主)」「ハシム(御名)」「アドシム(主の御名)」と言う。

メシアニックジューとして、私たちは主の御使いは大抵イエシュア(イエス)であり、愛の律法は儀式的な象徴主義を越えるものであり、イエシュアの十字架は犠牲の十全な意味を示すものであり、聖霊は降りて来られ私たちの内に住まわれているという理解に達しています。この視点は私たちの日常における信仰生活に律法を適用する際、バランスを与えてくれます。

新約聖書において、律法は私たちの心に書きつけられ(エレミヤ 31:31)、それゆえ、私たちが律法を守る方法は心の中から動機付けられるものであり、律法の意味について「心」に重点が置かれ、儀式の外面的な詳細については柔軟に対応しています。

ラビ的ユダヤ教は律法を守るのに尽力していますが、文脈から外れて適用しています。トーラー(モーセ五書)そのものはそのまま変更はありません。しかし、ハラハーの規定は聖霊の導きと置き換えられ、ラビはメシアと置き換えられ、そして、血の犠牲は全般的に失われています。

私の息子の一人が最近宗教的なユダヤ人に福音を伝え、彼が律法を守るかどうか尋ねられた時、彼は「守ります。しかし適用の仕方は別の方法です。」と答えました。彼が帰宅して報告しました。「お父さん。信仰とメシアの真の意味について真剣な話し合いを始めるのに、これはうまく行くよ。」

安息日の教え

すべての倫理的な律法の基礎は十戒です。十戒はトーラー(モーセ五書)の3箇所で見つけることができます。出エジプト 20 章、レビ記 19 章、そして申命記 5 章で、少しずつ記述方法が異なっています。最も議論を呼ぶ命令は安息日です。ラビ的ユダヤ教は安息日に関してとても過敏です。例えば、安息日にトイレトペーパーをちぎっていいかどうかという事に意見の不一致があるのです。そこで、ある一団は安息日のために「すでにちぎってある」トイレトペーパーを使っているのです。(注 5)

注 5: ヤッド・ハシュモナでは、サービスの一環として、安息日になると、正統派ユダヤ教徒がお手洗いをできるように普通のロールされたトイレトペーパーから、そのような「すでにちぎってあるトイレトペーパー」に置き換えるのだそうです。(ヤッド・ハシュモナのボランティア談)

[ある時、ヨセフ・シュラム師がタルムードについて教えていて、黄金の子牛の罪が起こったのが安息日であったことを示した個所に来ました。参加していたある年配の宗教的ユダヤ人女性が声を上げ、「そんなはずはない！」ヨセフは、それはなぜかと尋ねました。彼女は答えました。「彼らはユダヤ人だったのでしょ？」この話を詳しく語る時、ヨセフと私は笑いすぎて涙を流しました。この冗談を「理解」するにはユダヤ人でなければならないでしょう。彼女が言いたいのは、姦淫、偶像礼拝、オカルト、そして反乱、これらは「理解」できるとして、安息日を破るなんてとんでもない！]

イエシュアによる安息日の規定

安息日の規定に関し、ラビの文献は数千ページに及びます。イエシュアは主のハラハーについて、3つの簡単な規定にまとめました。

マルコ 2:27「安息日は人間のために設けられたのです。」

イエシュアは安息日を元の目的へと戻されたのです。それは、アダムの罪の呪いから週ごとに解放するために設けられたのです。それは千年王国の先駆けを味わうものなのです。この世界の事柄から休みを得る時であり、私たちの心を主に向ける時なのです。

マルコ 2:28「人の子は安息日にも主です。」

イエシュアは、安息日をどのように守るかについて、ご自身が最終的な権限を持つと言われました。主ご自身が主の御使い/YHVHの姿をとって、最初に安息日の規定を書かれました。ラビは監督なくして律法を守ることは不可能だと言います。詳細を守るために、人々は皆ラビの指導が必要であるという。もしあなたがラビの指導を受けるなら、あなたが正しく行動したかどうかについて、疑問を抱かないであろう。イエシュアが私たちのラビであり、主の指導に基づいて安息日を守ることができるのです。

マルコ 3:4「安息日にしてよいのは、善を行なうこと。」

イエシュアは何度も、倫理的な規定が儀式的な規定を覆すことを述べられました。主は律法を正しく解釈するには、単純な倫理観、論理的な判断力、そして人々の生活に対する健全な対応が必要であると指摘しておられます。

私は、伝統的なユダヤ人が律法を守り、メシアニックジューは守らないという立場に反対します。私たちは確かに神の律法を守りますが、新約聖書の光を当てて元の意味を回復することによって、そのように求め行なうのです。キリスト教の多くは神学的な言い訳によって神の律法を棄却し、ユダヤ教の多くは儀式的な伝統によって神の律法を歪めています。

イエシュアの権威の元、恵みと信仰による服従をもって、救いのバランスの中を歩いて行こうではありませんか。